

授業科目

薬理学

担当教員名 三嶋 行雄	対象学年	3	対象学科	臨床
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○			

授業の概要

下記項目を中心に講義する。

1. 薬とは何か。
2. 薬物と生体の相互作用。
3. 薬物の副作用。
4. 薬効評価とその問題点。
5. 生体情報伝達機構。
6. 末梢神経系、中枢神経系、腎、循環器系に作用する薬物。
7. 化学療法薬について。

授業の目的

薬物治療に関する基本的な知識及び各薬物の薬理作用・副作用などを理解する。

学習目標

1. 薬とは何かを説明できる。
2. 薬物と生体の相互作用を説明できる。
3. 薬物の副作用を説明できる。
4. 薬効評価とその問題点を説明できる。
5. 生体情報伝達機構を説明できる。
6. 末梢神経系、中枢神経系、腎、循環器系に作用する薬物を説明できる。
7. 化学療法薬について説明できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	薬理学とは、薬物とは、基本的な薬物の吸収、分布、代謝、排泄	講義	三嶋 行雄
2	薬物に関する生体の因子	講義	三嶋 行雄
3	薬物作用の仕組み	講義	三嶋 行雄
4	薬物の相互作用、副作用	講義	三嶋 行雄
5	炎症・感染症に使用する薬	講義	三嶋 行雄
6	悪性腫瘍に使用する薬	講義	三嶋 行雄
7	糖尿病、内分泌異常に使用する薬	講義	三嶋 行雄
8	神経疾患に使用する薬	講義	三嶋 行雄
9	精神疾患に使用する薬	講義	三嶋 行雄
10	血液疾患に使用する薬	講義	三嶋 行雄
11	循環器疾患に使用する薬	講義	三嶋 行雄
12	腎臓・泌尿器疾患に使用する薬	講義	三嶋 行雄
13	消化器疾患に使用する薬	講義	三嶋 行雄
14	呼吸器疾患に使用する薬	講義	三嶋 行雄
15	感覚器疾患に使用する薬	講義	三嶋 行雄

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学第2版	中嶋敏勝	医歯薬出版	2012年	2,800円+税	
参考書						

評価方法

理解の程度を定期試験（100％）にて評価する。

履修上の留意点

オフィスアワー・連絡先

N508 火曜日午後 mishima@nuhw.ac.jp